

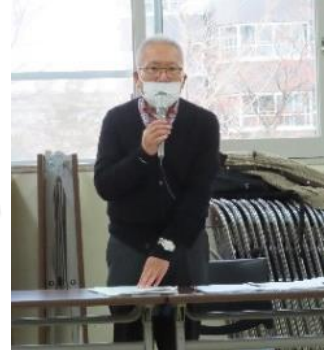
なんも・なんも 春

■今号のスポット【真駒内地区】

緑町第一住宅団地連絡会議 「グリーンネット」

話し合いの場が“自分たちで”地域のことを考える住民主体の第一歩に

生活支援体制整備事業では、地域の支え合いづくりに向け、各地で、その実情に応じた話し合いの場(協議体)を推進しています。緑町第一住宅団地連絡会議「グリーンネット」もその一つで、回数を重ねるなか、地域に変化が生まれた事例を紹介します。



第4回(令和4年11月19日)の様子

団地の管理組合役員を中心メンバーに、居住者の実態・生活課題のアンケート結果を共有し、今後、高齢化が進んでいく団地内での支え合いづくりを考える場として、令和3年に第1回目を開催。

以降、継続してきた話し合いの過程で、住民による支え合いの必要性の意識が醸成され、今年度は管理組合が主体的に名簿の更新や気掛かりな高齢者の把握、予備錠の預かりを検討する動きに発展しました。

第4回(令和4年11月)では、一般傍聴の住民を含め、この動きを共有したほか、他のマンションにおける見守り事例の紹介を通じ、安否確認や助け合いにつながる「交流(集い)の場をつくることも大事では」との想いが共有されました。これからの展開が期待されます。



Point

■場の設置⇒継続的に話し合うことで効果

- ・参加者間のつながりの形成—顔の見える関係
- ・現状や課題の把握
- ・「こんな地域になるといい」—地域づくりに向けた想いの共有
- ・「できることから取り組んでみよう」—住民主体の機運醸成



生活支援
コーディネーターが
応援します!

⇒■最終的な目標は、支え合いの仕組みづくりへ

これから取り組んでみたい、話し合いの場を持ってみたいという町内会、地域の方はご連絡をお待ちしています!